頼りにならない避難計画の中では、老朽原発はうごかさないで ！

オール福井反原発連絡会

４月１３日の報告

１、署名を提出しました

福井県内をはじめ全国から寄せて頂きました署名を福井県知事と議会議長に本日15時から提出しました。

署名の宛先	手書き署名	ネット署名		合　計
		県内発信	避難関西	
知事への署名	３，４９４	７７３	１，１７１	５，４３８
議長への署名	３，４９３			５，４３７

３月から始めた署名活動は、たった数週間で５，４３７筆になり、今日提出しました。(FAX や手紙などにて届けられた署名数は、後日調べます。)

全国の皆さまありがとうございました。

知事あての署名を受け取ったのは、原子力安全対策課長で、福井県議会は議会局次長でした。マスコミは、全社がそろったように思います。

２、はじめての要請

福井県議会の厚生常任委員長と副委員長が、私たちと協議してくれました。

長い反原発運動の歴史の中でも初めてのことだと思います。

5～6 人の方が質問や意見を述べ委員長から回答するやり取りでした。

その概要は、以下のようなものでした。

① 全員協議会での結論を出すのは、議会制民主主義を壊すものだから議会の中で慎重に議論して欲しい。

② 再稼働に同意して大事故が発生したら、福井県議会議員としての責任が伴うことだから責任をもって審議して欲しい。
③ 3 次元の地層探査を行って関西電力が言っていることが正しいか検証するべきだ。
④ 高浜や美浜の住民は、原発災害時の避難について強く関心を持っている。避難について明確な方法が県から示されていない中で、再稼働に同意すべきでない。
⑤ 請願を審議しないで同意の結論を出すことはないでしょうね。
⑥ 同意に向けたスケジュールはどのように考えているのか。

全体的な回答。

- 審議のスケジュールは、4月１４日と１５日に美浜･高浜原発の視察を行い、１９日に全員協議会を開いて国や関西電力から報告を受けるまでは決まっているが、それ以降はまだ決まっていない。
- 請願は、急ぐものであれば直近の議会で審議されるはず。直近は、5月１８日の組織議会だ。急ぐものでなければ、６月の定例会で行われる。
- 色々な皆さんの意見をお聞きして判断したいと思っている。

皆さんのご意見はお聞きした。と言うポーズ的協議だったと思います。
しかし、そのようにせざるを得なかった状況を切り開いたのは、この間の全国的な運動によるものだと思っています。
残された日がどれだけあるか分かりませんが、頑張り続けます。

3、１４日に５万枚のチラシ

このチラシは、老朽原発の危険性を訴えたものです。そのチラシの中に議長への要請はがきが刷り込んでいて、福井市民から議長に対してはがきを出せるものです。
新聞折込により５万戸に明日一斉に配られます。
つい昨日まで、福井新聞の折り込みセンターが新聞に折り込めないと言っていましたが、各方面からの問い合わせにより新聞折込が出来るようになりました。
明日１４日の早朝に一斉に各家庭や会社などに配られることになります。
良い結果を期待したいです。

40年超の老朽原発 高浜1,2号 美浜3号

本当に、動かしてもだいじょうぶ？

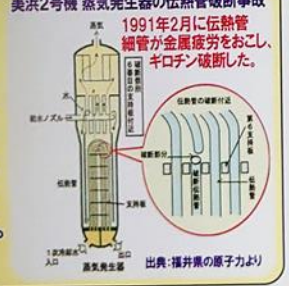
原発の運転は、法律で原則40年と決められています。
それは、1991年の美浜2号機の伝熱管破断事故、2004年の美浜3号機の2次系配管破裂事故、2011年の福島第1原発の事故の教訓があるからです。
なぜ動かすと危険なのか・・その実態を見てみます。

金属疲労

激しい圧力の変化と振動で、金属疲労をおこしています

金属材料に繰りかえし、長時間、「力」が加わると、金属疲労により小さな傷が生じ、やがて破損にいたります。

ポンプやタービンによる振動や、水や蒸気が配管を流れるときに生じる振動が長年、加わることで破損しやすくなっています。

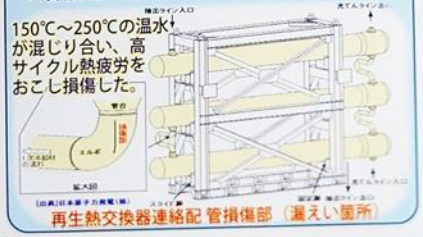


熱疲労

温度が繰り返し激しく変化し、熱疲労をおこしています

温度のちがう水や蒸気が交わる付近で、熱疲労による破壊が頻発しています。1999年7月には、敦賀2号機で、再生熱交換がひび割れをおこし冷却水50トンが漏れました。

また、原子炉の「起動・停止」による加熱・冷却により、蒸気発生器の溶接部等に亀裂が発生しています。



中性子脆化

放射線（中性子）を受け続け、鋼鉄が脆（もろ）くなっています

原子炉圧力容器の内面は、1㎡当たり1,500トンの圧力と320℃の高温や、核分裂によって発生する中性子などの放射線にさらされ日々損傷しています。

運転を開始したばかりの新品の圧力容器の鋼鉄は、脆化温度（脆くなる温度）が-16℃で、ある程度の衝撃に耐えられましたが、40年以上運転することで脆化温度は90℃近くなり脆くなります。そのため、重大事故が発生し緊急炉心冷却装置（ECCS）が作動して冷却水が注入されると、圧力容器が脆化温度以下（高浜1号は99℃）に冷やされ破損する危険があります。そうなれば、福島原発事故を上回る事態となることは明らかです。

浸食・腐食

高温の冷却水や蒸気に浸食され、腐食による損傷がおきています

種類のちがう金属が接触している部分が冷却水や蒸気と反応して溶けたり（浸食）、サビ（腐食生成物）ができます。

老朽原発で問題となるのは応力腐食割れ（局所的な金属腐食）です。金属が腐食し、さらに、材料に引張応力が加わって亀裂（割れ）が生じます。

郵便ハガキ

63円切手をお貼り下さい

910-8580

福井市
大手3丁目17-1
福井県議会
議長 畑 孝幸 様

名前

住所 〒

申し入れ呼びかけ団体
オール福井反原発連絡会／林広員 0776-27-6648、090-8263-6104
〒910-0026 福井市光陽3-14-18 福井県民主医療機関連合会内

発行団体
オール福井反原発連絡会／林広員 0776-27-6648、090-8263-6104
〒910-0026 福井市光陽3-14-18 福井県民主医療機関連合会内
（原子力発電に反対する福井県民会議、サヨナラ原発福井ネットワーク、福井から原発を止める裁判の会、原発住民運動福井・嶺南センター、原発問題住民運動福井県連絡会）
ふるさとを守る高浜・おおいの会／東山幸弘 0770-72-3705
〒919-2373 大飯郡高浜町小和田29-17
【発行日 2021/4/4】

老朽原発でこんな事故が・・・

「絶対起こらない」と言われていた“ギロチン”破断事故！（表面の左下に図）

1991年2月9日、美浜2号機で、蒸気発生器の細管の1本が一瞬でギロチン破断し、放射能を含んだ一次冷却水55トンが漏れ、スリーマイル原発事故（1979年米国）と同様の大事故が起きる寸前でした。

事故のあった美浜原発3号機二次系配管、破裂して蒸気が噴き出した部分（経済産業省HPより）

復水管（2次系配管）が破裂…28年間一度も点検せず！

2004年8月9日、美浜3号機の復水管（2次系配管）が破裂。10気圧で140℃の高温水が885トン、高温水蒸気となって噴出し、5人の下請け労働者が死亡し、6人が重火傷。破裂した復水管は、28年間、一度も点検されておらず、長年の使用で肉厚が0.4ミリ（最大）と極端に薄くなっていました。

加圧水型原発の“アキレス腱”といわれる蒸気発生器で損傷が多発している

高浜4号機では昨年11月、3台ある蒸気発生器の伝熱管5本の外側が削れ、その内3本は管厚が約60%も減少する摩耗減肉（原因＝異物混入の可能性）が発生しました。

また今年2月高浜3号機で、「混入した異物」による同伝熱管の減肉・損傷が見つかりました。ところが、「混入した異物」による損傷は、規制委員会の再稼働のための適合性審査では想定されていませんでした。

福井県議会　議長　畑　孝幸　様

私たちは、以下のことを申し入れます。

1．40年超の老朽原発である高浜1、2号機、美浜3号機の運転を再開しないよう、関西電力に申し入れてください。
2．福井県議会で、老朽原発の再稼働に同意しないことを決議し、杉本達治県知事にその旨を申し入れてください。
3．福井県民及び、京都府、滋賀県など周辺自治体住民を対象とした国主催の説明会を、再稼働に賛成する専門家及び反対する専門家の双方を招いて開催するよう国に求めてください。

私からの訴え

大地震が発生したら、ますます危険に！

活断層の巣に原発！？

地震動の大きさを過小評価してきた「耐震設計審査指針」

諸外国は活断層を避けて原発を建設していますが、日本では原発の多くが危険な活断層の真上か直近に建っています。それは、活断層が多すぎて避けられないからです。

国は、鳥取県西部地震（2000年）が耐震設計審査指針の想定以上だったため、2006年9月に審査指針を大幅に改定しました。

ところが、その時も、専門家の警告を無視して、活断層を正しく評価せず、過小評価してきました。

今おきている巨大地震は、審査指針の根本的な検討を求めています。

大飯原発3,4号機の“設置許可変更”を取り消し 大阪地裁…地震動評価に「過誤、欠落」

12月4日、大阪地裁が、関西電力大飯原発3、4号機にたいする規制委員会の設置変更許可を取り消す判決をだしました。

原発を襲う最大の地震の揺れの大きさ（基準地震動）について、平均値を採用しているため過小評価の可能性がありながら、新規制基準に適合という規制委員会の判断に不合理な点があるとしています。

規制委が認めた大飯原発の基準地震動は、856ガル（加速度の単位）ですが、住民側は、ばらつきを考慮すれば1,150ガルになると言っています。